

第16回日本・シンガポール・シンポジウム 武井外務副大臣基調講演

1 冒頭

トミー・コー共同議長、
佐々江共同議長、
シム・アン上級国務大臣、
御列席の皆様、

外務副大臣の武井俊輔です。本日の第16回日本・シンガポール・シンポジウムの開催を大変喜ばしく思います。本シンポジウムは長い歴史を誇りますが、2019年の東京開催以来、新型コロナウイルス感染症により、オンライン開催を余儀なくされておりました。今般、4年ぶりに対面で開催できることを大変喜ばしく思っております。また、この機会に、日本の外務副大臣として基調講演を行うことを大変光栄に感じます。日本政府を代表し、日・シンガポール双方の関係者の皆様の御尽力に深く御礼申し上げます。

本日は、日・シンガポール関係や地域・国際社会への両国の貢献について、私の考えをお話したいと思っております。

2 日・シンガポール関係の意義

日本とシンガポールは、新型コロナの時代にあっても、緊密な関係を維持・強化してきています。特に、昨年、5月のリー・シェンロン首相及びバラクリシュナン外務大臣の訪日、6月の岸田総理大臣のシンガポール訪問、9月のリー首相の訪日、及び10月の林外務大臣のシンガポール訪問と立て続けに首脳・外相間の往来が実現したことは、緊密な二国間関係の証左です。

こうした両国間のハイレベルの意思疎通の中で、安全保障、デジタル、気候変動等、両国共通の課題について協力を深めるとともに、厳しさを増す地域・国際情勢について緊密に連携して対応していくことを確認してきました。その全てが、日本とシンガポールの間で築いてきた「信頼」に基づいていることを忘れてはなりません。

その上で、個別の分野において具体的な成果を着実に上げてきました。例えば、ビジネス分野では、官民対話の立ち上げを実現したことは喜ばしく、その枠組みの下でスタートアップ支援、デジタル技術を活用したサプライチェーン高度化、デジタル経済の各分野について、協業に向けた議論が始まっています。特にスタートアップ分野では両国政府の具体的な協力の取組として「日・シンガポール・ファストトラックピッチ」を4月に開催することに合意しました。また、デジタルの分野では、岸田総理とリー・シェンロン首相との間でデジタル田園都市国家構想とスマートネーション構想の連携を含む協力強化を確認したことを受けて、具体的な協力の実現のために専門家会合における集中的な議論が始まっています。

また、人的交流の分野も重要です。年間でシンガポールの総人口の約10分の1にあたる約49万人に訪日いただいていたコロナ禍以前の水準に回復すべく、人の往来の再活性化も進めていきます。

同時に、農林水産物・食品の輸出拡大も推進していきます。我が国にとって、シンガポールは重要な海外市場の一つです。特に、地域のハブであるシンガポールの発信力には日本の各都道府県から高い期待が寄せられています。このため、各都道府県はシンガポールで独自に食品プロモーションを実施しています。嬉しいことに、私の出身地の宮崎県産和牛や柑橘類が当地で大変好評を博していると聞いています。シンガポールの人々に安心して美味しい日本の食品・果物を味わってもらい、その感動を内外に積極的に発信していただくことにより、この地域からより多くの人々に訪日いただくことを望んでいます。

私自身もこうした多岐に亘る日シンガポール両国の取組を後押ししていきます。昨夏、日本シンガポール友好促進議連の一員としてシンガポールを訪問し、政府関係者や議員の皆さんと両国関係強化の方策について率直な意見交換を行いました。また、かつて私も滞在したポトン・パシル地区の閑静な町並みを再訪したり、シンガポール科学技術研究庁でこの国の最先端技術に触れるなど、シンガポールの多面性を再発見する機会に恵まれ、大変有意義でした。

今回の訪問でも、シンガポールの皆様と胸襟を開いた意見交換を行うとともに、様々な地を訪れることにより、シンガポールへの理解を更に深め、今後の日・シンガポール関係の更なる発展と「信頼」の深化に一層貢献してまいりたいと考えています。

3 地域・国際社会への貢献

シンガポールは、我が国にとって、地域や国際社会が直面する課題に対応する責任を共有する重要なパートナーでもあります。昨年の日経「アジアの未来」において、リー・シェンロン首相から、日本がこの地域において安全保障面の役割を果たすことについて期待が表明されたことは、日本への信頼の表れでもあり心強いものでした。

我が国は、昨年末に新たな「国家安全保障戦略」を策定しました。この戦略は、他国との共存共栄、同志国との連携、多国間の協力を重視するといった原則に言及した上で、「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP)というビジョンの下での外交を展開しつつ、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向けた取組を確固たる覚悟をもって主導する我が国の決意を示したものです。安保環境の改善につながり、貴国を含む地域の国々にとっても利益になると確信しています。また、現在、日本はG7議長国及び安保理非常任理事国を務めています。こうした背景の下、我が国として、地域および国際の平和と安定の確保により積極的に貢献し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の擁護に向けて国際社会をリードしていきます。また、ロシアの暴挙で傷ついた国連の信頼を取り戻すべく、安保理改革を含む国連の機能強化にも取り組んでいきます。

FOIPというビジョンは、今や多数の国々に支持され、共有され、各国が関連する取組を発表してきています。特に、我が国はFOIPと本質的な原則を共有する「インド太平洋に関するASEANアウトルック(AOIP)」を一貫して強く支持しています。我が国としてAOIPの主流化に向けたASEANの取組を後押ししていく考えです。

本年は日ASEAN友好協力50周年であり、12月を目途に東京で開催される日ASEAN特別首脳会議において、日ASEAN関係の将来を見据えた新たな協力のビジョンを打ち出し、大きな成果を上げられるように、シンガポールとも緊密に連携したいと考えています。

昨今の地域の安全保障環境に目を向けてみましょう。我が国が位置する東シナ海に加え、南シナ海においても、国際法に従わず、力を背景とした一方的な現状変更の試みが続いています。この2つの海の間位置する台湾海峡の平和と安定も極めて重要です。

また、今なお続くロシアによるウクライナ侵略も、国際秩序の根幹を揺るがすものです。ロシアの攻撃により、ウクライナ各地で多くの市民が犠牲になっていることを深刻に受け止めています。また、ロシアは国連総会決議や国際司法裁判所の命令もまるで紙くずのように歯牙にもかけていない他、無責任なレトリックを用いて核兵器保有国としての立場を悪用しています。

これらの課題は、地域のプレーヤーだけで対応すべき「地域問題」ではなく、国際社会における価値や原則に直接関わる問題であることは明らかなです。また、核・ミサイル問題や拉致問題を含む北朝鮮への対応、ミャンマー等を巡る諸課題に対応することも引き続き重要です。

また、ウクライナ危機は世界のサプライチェーンが持つ偏りが、安定的な物流に脆弱性をもたらすというリスクを明らかにしました。経済的な依存関係を利用した威圧を躊躇しない国が存在する事実は、こうしたリスクが一過性のものでないことを示しています。こうした経済安全保障上の課題への対応は、岸田政権においても、最優先課題の一つであり、この分野での各国との協力も重視しています。

また、自由で公正な経済秩序を構築する上で、CPTPPのハイスタンダードを維持すること、さらには経済的威圧や不公正な貿易慣行を許容しないという同協定の精神と原則を堅持することが一層重要となっています。

昨年のＴＰＰ委員会議長としてのシンガポールの貢献を高く評価するとともに、シンガポールとの間で引き続き緊密に連携していく考えです。

さらに、「アジア・ゼロエミッション共同体」における協力を始めとしたエネルギー・気候変動など、両国共通及びグローバルの課題についても共に連携して対応していきます。

日本とシンガポールは、１９９７年以来、国際社会が直面する様々な課題に対処するため、共同で第三国に対する研修（ＪＳＰＰ２１）を実施してきており、最近では海上安全管理やグリーンエコノミー、サプライチェーン強靱化といった重要課題についての研修を通じ、第三国の能力強化に共に貢献しています。

４ 結語

日本とシンガポールは、共通の志、共通の課題を持っており、二国間関係のみならず、本日取り上げたような地域及び国際社会の様々な課題に対し、共に知恵を絞り、共に国際社会を主導し、今後一層連携して取り組んでいく潜在性は極めて高いものと確信しています。

本日のシンポジウムの議論が、日本とシンガポールが共に大事にする人と人、国と国の間の信頼の構築につながり、二国間関係、そして本年５０周年という歴史的な節目を迎えた日ＡＳＥＡＮ友好協力関係の一層の発展と、地域・国際社会の平和と繁栄に向けた両国の協力の飛躍の端緒となることを祈念して、本基調講演の結びとさせていただきます。

御静聴、ありがとうございました。

（約３７３７字）

（了）